

〈研究報告〉

英語を理解する外国人技能実習生のための地域語テキストの作成

— 高知県香美市の場合 —

今井 多衣子

要 旨

外国人技能実習生が急増している高知県において、香美市に所在する受け入れ団体の外国人農業技能実習生を対象にした日本語講習に筆者は2010年から関わってきた。そのなかで、技能実習生が毎日接することになる土佐弁の学習には2003年に作成した地域語教材『高知の生活語2003 高知はえいろう』を使用してきた。2018年3月にそれまでの実習生たちの意見を参考にして、農業技能実習生の生活に根ざした地域語教材『土佐弁 サバイバルガイド 2018 The Tosa Dialect Survival Guide 2018 ～仕事編～ Job Edition』とその便覧である「Every day Tosa-Ben」～A Guide to Living in Kochi～を作成した。本稿はその地域語教材と便覧の作成の経緯、及び使用状況についての実践報告である。なお、これまでの経緯については今井(2016)「外国人農業技能実習生の地域語表現の学習方法—高知県香美市の場合—」で報告した。

【キーワード】

外国人農業技能実習生、日本語学習、地域語の学習、地域語教材、実践報告

0. はじめに

近年、労働の場において外国人労働者の姿を見かけることは日常生活の一般的な風景となってきている。農業が基幹産業である高知県でも、朝夕、外国人技能実習生が自転車に乗り労働場所へ出かけて行く姿を見かけることが日常の風景となっている。

技能実習生が仕事を行う場合、日本人からの指示を理解する必要がある。その指示をする日本人は、方言を使うことが多い。技能実習生は、基本的な日本語の学習に加え、地域の方言形を学ぶ必要がある。

本稿では、筆者が関わっているフィリピンからの農業技能実習生に対して、方言形の学習をする際に必要な地域語学習テキスト、及び便覧の作成経緯、その学習実施状況についての報告を行う。

1. 外国人技能実習生受け入れ制度

外国人技能実習生とは、国際貢献のため、開発途上国等の外国人を日本で一定期間（最長5年間）受け入れ、OJT⁽¹⁾を通じて技能を移転する制度（1993年に制度創設）である「外国人技能実習制度」⁽²⁾の下で、日本に働きながら滞在できる外国人のことである。彼らの就く職種は2017年12月現在、77種と多岐にわたっている。⁽³⁾受け入れの多い職種は、①食品製造関係、②機械・金属関係、③建設関係、④農業関係、⑤繊維・衣服関係である。2016年には3位だった食品製造関係が2017年に第1位になり、2016年には農業関係を上回っていた繊維・衣服関係が2017年には僅かに下回った。また建設関係も近年急増している。なお、⑥漁業関係は横ばいの状態での受け入れとなっている。⁽⁴⁾

1.1 外国人技能実習制度の経緯

外国人技能実習生の歴史は、1950年代の国際協力事業団（JICA）受け入れに始まる。⁽⁵⁾1989年に「研修」の在留資格が創設され、当初は研修後、技能検定試験に合格した外国人が斡旋団体を通じて中小企業に送り出されていた。1993年4月に「技能実習制度」が正式に創設され、それまでの「外国人研修制度」は「外国人研修・実習制度」と変わった。それに伴い、在留資格としては「特定活動」が新設された。1997年に研修期間1年と技能実習期間1年の最長2年間とされていた在留期間が3年となった。そして、2009年7月に外国人研修・技能実習制度に関する入管法が改正され、2010年7月以降、在留資格は「技能実習」となった。⁽⁶⁾

受け入れは、「企業単独型」と「団体監理型」に大別される。後者は、中小企業団体などが受け入れており、全体の96.6%を占める。1990年より「中小企業団体等による外国人研修生の受け入れ」の承認により、協同組合を組織することによって、国内の中小企業も研修生の受け入れが可能となった。そのため、団体監理型の実習実施機関における実習生の半数以上が従業員19人以下の零細企業となっている。⁽⁷⁾その後、1991年に（財）国際研修協力機構（JITCO）が設立され、この制度において受け入れから帰国後の対応も含めて一貫したサービスを提供してきた。⁽⁸⁾しかし、2016年11月に技能実習制度が見直され、新しく「外国人技能実習機構（認可法人）」が新設され、大部分の業務が「機構」に移行したため、現在 JITCO は、申請書作成や各種講習の実施、情報発信などのサポート的なサービスを重点的に行っている。

また、制度の見直しにより技能実習の適正な実施のため、監理団体について

ては以前は申告制だったものが、今後は厚生労働大臣、法務大臣の許可がないと監理業務を行えないことになるという許可制となった。そして、実習実施者については実習実施機関が適正か否かは、これまでは実習生各々がビザを申請する際に入国管理局で確認していたが、今後は実習実施者が技能実習を始めた際に、遅滞なく届出をしなければならないという届け出制となった。技能実習計画については個別の認定制となり、改正以前より厳しく技能実習制度が運用されるようになった。そして、優良な監理団体は、実習生の実習期間の延長がさらに2年間認められ最大5年間、日本で実習できるようになった。また、優良な監理団体に対して、それまでは全従業員数の最大5%であった実習生の受け入れ枠が最大10%まで認められるようになった。⁽⁹⁾

1.2 四国及び高知県の外国人技能実習生の受け入れ状況

2017年末には全国に外国人技能実習生は274,233人おり、四国には14,525人存在している。一番多いのは、愛媛の5,753人、次いで香川の4,906人、そして徳島の2,511人、最後が高知の1,355人となっている。愛媛と徳島では繊維・衣服関係に、香川では食品製造関係と農業関係に、高知では農業関係に従事する者が多い。また、高知県は室戸に「高知県外国人漁業研修センター」があり、年に2回3ヶ月間、インドネシアからの外国人漁業技能実習生を受け入れていることに特徴がある。⁽¹⁰⁾ 監理団体の許可には、特定監理事業と一般監理事業の2つの区分があり、外国人技能実習機構の資料によれば、高知県の監理団体は、特定監理事業が11と一般監理事業が4の計15の監理団体が記載されている。フィリピンからの農業実習生を受け入れているのは県内に3団体あるが、⁽¹¹⁾筆者が関わっているのはその中の「高知東部農振協同組合」である。

1.3 高知県におけるフィリピンからの農業技能実習生

高知県は1975年7月28日に現くろしお農業振興協同組合の理事長である吉川浩史氏の紹介をきっかけにフィリピン共和国ベンゲット州と姉妹県州協定を結んだ。その後、くろしお農業振興協同組合の前身となる組織が1997年から、ベンゲット州の農業実習生受け入れを開始し、2007年から高知東部農振協同組合もくろしお農業振興協同組合と同じ送り出し機関からの農業実習生の受け入れを現在まで行っている。⁽¹²⁾高知県の西部（須崎以西）をくろしお農業振興協同組合が、東部（香美市、香南市）を東部農振協同組合が主

に受け入れている状況である。

1.4 高知東部農振協同組合及びくろしお農業振興協同組合の実習生の受け入れ

高知東部農振協同組合は2006年3月に、ニラなどの栽培者が組合員相互の経営の向上・安定と高齢化や後継者不足に対応するために、1975年から高知県と姉妹県州関係にある、フィリピン共和国ベンゲット州からの農業研修生（当初の呼び方）を受け入れるために設立された組織である。⁽¹³⁾研修生の受け入れは2007年11月の5名から始まり、2018年8月来日の14名の20期生で総計177名の実習生を受け入れてきている。現在は高知東部農振協同組合に27軒の農家が属しており、内訳は香美市に19軒、香南市に8軒である。22軒がニラ栽培農家で、そのほかに花卉栽培（トルコ桔梗）農家が1軒、やっこねぎ農家が4軒となっている。今回の20期生の受け入れは、ニラ農家が10軒、花卉栽培農家が1軒、やっこねぎ農家が2軒だった。

また、くろしお農業振興協同組合は前身であるJAとさくろしおでベンゲット州からの農業研修生を1997年から受け入れ始めた後、実習生を受け入れるために2005年に独立して設立された組織である。2018年8月来日の15名で総計約630名の実習生を受け入れてきている。現在はくろしお農業振興協同組合に75軒の農家が属しており、内訳はミョウガ（ミョウガ及びその他の野菜）農家59軒、柑橘類栽培農家が5軒、大葉農家が4軒、メロン農家が2軒、トマト、ニラ、シシトウ、養豚、葉ゴボウ（その他の野菜も栽培）の農家が各1軒となっている。

2. 高知東部農振協同組合農業技能実習生の日本語授業内容

東部農振協同組合（及びくろしお農業振興協同組合）で受け入れているフィリピンからの農業技能実習生は通常フィリピンでの送り出し機関において『みんなの日本語初級Ⅰ』の20課くらいまでは学習してきている。筆者らが日本語講習を始めた2010年9月より、高知での60時間の日本語学習では既習項目を定着させるために主に復習に力を入れており、教科書は、『にほんご45じかん』の本冊と『にほんご45じかん れんしゅうちょう』を使用している。そして、彼らの仕事に必要なと思われる土佐方言の学習も自作の地域語教材『高知の生活語2003 高知はえいろう』を使用して行ってきた。しかし、これらは実習生の実際の仕事内容を反映していなかったため、新しく2018年

3月に地域語教材である『土佐弁 サバイバルガイド 2018 The Tosa Dialect Survival Guide 2018 ～仕事編～ Job Edition』とその便覧である「Every day Tosa-Ben」～A Guide to Living in Kochi～を作成した。

次に、この教材作成の経緯及び内容を述べる。

3. 『土佐弁 サバイバルガイド 2018 The Tosa Dialect Survival Guide 2018 ～仕事編～ Job Edition』と便覧「Every day Tosa-Ben」～A Guide to Living in Kochi～作成の経緯

2016年夏から聞き取りを行い、その際に出た課題の解決のために地域語教材の作成に取り組んだ。

3.1 2016年来日東部18期生夏組⁽¹⁴⁾への日本語講習における取り組み⁽¹⁵⁾

2016年夏、帰国間近の実習生や受け入れ農家からの意見を聞いたり、実際の実習場所の見学などを行ったりした結果、新しく「ニラの仕事の場面」と「だいじな ひょうげん」をそれまでの方言の授業に追加して2016年夏来日の18期生に対して指導した。その結果、まず、英語の翻訳を付けた地域語教材の改善、次に、「語彙リスト」のように携帯でき、すぐに参照できる便覧の作成が課題としてあがった。そこで、上記の課題に沿った英語訳の付いた地域語教材の作成に取り組んだ。

3.2 2017年来日東部18期生冬組への日本語講習における取り組み

2017年来日東部18期生冬組12名に対しては2016年来日東部18期生夏組8名に対して行った学習と同様の内容で方言学習を行った。しかし、英語訳が文字化されていない点は相変わらず理解に困難が伴った。

3.3 2017年来日東部19期生夏組への日本語講習における取り組み

2017年来日東部19期生夏組16名に対して、従来の『高知の生活語2003 高知はえいろう』2、3、4課に加え、6課の「ニラの仕事」の英語訳が出来ていたのを、それを併用して授業を行った。その後に行った<アンケート1>と「だいじな ひょうげん」を学習した後の授業の最後に行った<アンケート2>を示す。アンケートの設問、回答は英文で記入してもらった。⁽¹⁶⁾

<アンケート1>は、(1) ニラの仕事についてどんなことを学びましたか、(2) 仕事と高知に住むことで大切なことは何ですか、(3) 仕事や土佐弁でもっ

と知りたいことがあれば書いてください、の3点を聞いた。(1) (2) についてはほぼ学習内容を理解出来たという記述が得られた。(3) はほぼ全員が「もっと勉強したい」との希望を書いていた。また4名がよりよいコミュニケーションのために学ばなければならない」と書いており、2名が「(大事な表現を) 紙に書いて欲しい」との要望を書いていた。

<アンケート2>は、(1) 土佐弁はわかりましたか、(2) 今日の授業はわかりましたか、(3) 授業の感想の3点を聞いた。(1) は「難しい」と3名が答えたが他は「いくつかはわかった」と書いていた。(2) は「難しかった」が1名、「わかった」が5名、他は「少しわかった」と書いていた。(3) は「わかった」が3名、「面白かった、よかった、興味深かった」が6名、「難しいが勉強したい」が6名、「授業の時間が足りない」と1名が書いていた。

さらに2名が土佐弁の学習は「コミュニケーションのために」必要との言及があった。2017年来日東部19期生夏組には、教科書の資料を渡せなかったが、日本人との意思疎通に土佐方言の理解が必要であるとの認識がうかがえ、これらの意見を参考としてさらに内容を検討した。

3.4 2018年来日東部19期生冬組への日本語講習における取り組み

2018年来日東部19期生冬組9名に対しては、完成内容の原稿を使用して授業を行った。ただし、イラストはなく、日本文のみで英文を読んで聞かせて解説する授業を行った。1課から8課までの内容を順番に学習した。最後に(1) 土佐弁の授業はわかりましたか、(2) 土佐弁のテキストは役立ちましたか、(3) 授業の感想の3点について聞いた。

(1) については「わかった、理解出来た」が3名、「少し理解出来た」が3名、「理解出来ない、難しい」が3名だった。(2) に関しては全員が「役に立った」と答えた。(3) については「難しかったが、興味深かった、楽しい」と8名が答え、1名のみ「よくわからない言葉もある」と答えていた。配布したテキストはコピーであったが、各課の内容には興味を示し、意欲的に学習出来た。

3.5 方言テストの実施

方言学習の理解を確認するために2017年来日東部19期生夏組16名と、2018年来日東部20期生冬組9名に対し、次の2種類のテストを行った。これは、「だいじな ひょうげん」⁽¹⁷⁾として取り上げた15文の言葉について意味を問

うものである。[方言テスト1] (以下参照) は英文の意味を選ばせ、[方言テスト2]ではその意味を記述させた。

Tosa-ben Test 1: Please choose an appropriate meaning from the following A~N. You can use same one (s).

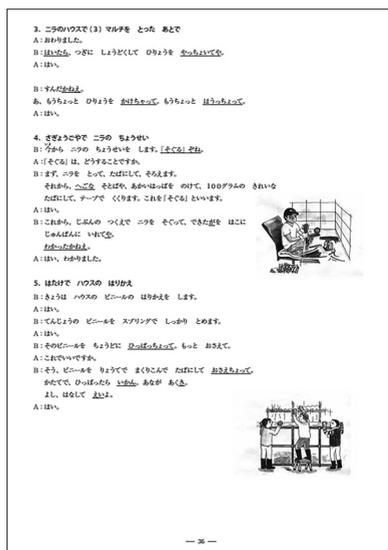
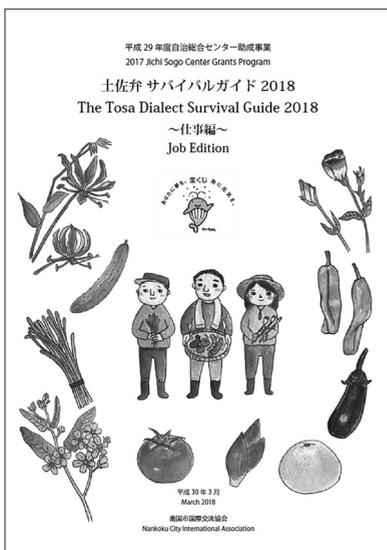
- 1 : おかねが たらん ()
- 2 : わからん ()
- 3 : したら いかん ()
- 4 : せんでも かまん ()
- 5 : いま やりゆう ()
- 6 : いま しゆう ()
- 7 : わかちゆう ()
- 8 : しごと しちゆう ()
- 9 : しごと やちちよく ()
- 10 : おさら おいちよって ()
- 11 : しごと しいや ()
- 12 : これ たべや ()
- 13 : さきに いきや ()
- 14 : きょうは、あめやき、
なかでするで ()
- 15 : みんなあに
ゆうちよいてや ()

- A: Please eat these.
- B: I don't have enough money.
- C: Please put a plate on (the table).
- D: Please tell this(as I told you) to
other people.
- E: I don't know.
- F: I've finished work.
- G: Don't do .
- H: You don't need to do that.
- I: I'm doing now.
- J: I know.
- K: Do your work.
- L: Please go ahead.
- M: We will work inside because it's
raining today.
- N: I will finish work.

結果は2017年来日東部19期生夏組16名は[方言テスト1]は正解者はいなかったが、[方言テスト2]は全員正解だった。また、2018年来日東部19期生冬組9名も[方言テスト1]は正解者はいなかったが、[方言テスト2]は5名が正解だった。どちらも、最初は正解者はいなかったが、再度復習をして、「だいじな ひょうげん」を繰り返すことで一層理解が深まったことがわかり、繰り返しの必要性を痛感した。

4. 『土佐弁 サバイバルガイド 2018 ～仕事編～』(技能実習生のための土佐弁地域語教材)の概要

今回のテキストは英語を理解する外国人技能実習生のための地域語教材として、従来使用してきた『高知の生活語2003 高知はえいろう』を下敷きにした教科書をめざした。そのため、体裁は『高知の生活語2003 高知はえいろう』と同じA4版60ページ、8課とした。



4.1 『土佐弁 サバイバルガイド 2018 ～仕事編～』の内容

8課よりなる各課は主に外国人技能実習生が遭遇する可能性のある場面を想定し、地域在住の日本人との会話を聞いて理解することを目的とした。各課は日本人と外国人技能実習生との会話、共通語訳、英語訳、〈ことば〉、〈重要表現(8課にはなし)〉からなる構成とした。

最初に「高知県のことばについて」で、高知県の言葉の概略を説明した。

各課のタイトルは以下の通りである。

- 1 課 いいにくいこと さきに ゆうちよき
- 2 課 仕事は しゃんしゃん せないかん

- 3 課 なんぼいうたち やかましかったぞね
- 4 課 ゴミの出し方は わかっちゅうろうか
- 5 課 ここから どう行ったら いいですか
- 6 課 ニラの仕事
- 7 課 ミョウガの仕事
- 8 課 仕事のことで ゆうちょくぞね

1 課では実習生が民間のアパートなどで生活を始めるにあたって守らなければならない事柄を大家さんとの会話によって学習できるよう配慮した。そして、母国との生活習慣の違いを学ぶ内容とした。2 課では技能実習生の職種は多岐に渡るため、農業以外の仕事の場面を取り上げた。3 課では騒音問題、4 課ではゴミの分別と実習生（外国人）が遭遇しがちな近隣トラブルの問題を取り上げた。その際、3 課では、叱られたときの上手な謝り方の説明を図示した。5 課ではリサイクルショップなどへ行く時の情報を入れた。6 課の仕事の場面ではニラ農家での作業場면을、筆者が実際の作業現場を見た上で設定した。7 課ではミョウガ農家での具体的な農業技能実習生の仕事の場面を取り上げた。これは対象としたフィリピンからの農業技能実習生の受け入れ農家がくろしお農業振興協同組合ではミョウガ農家が多数を占めるため、ミョウガの仕事の場면을聞き取りにより設定したものである。そして、8 課では受け入れ農家が実習生に望むことを取り上げ、できるだけ日本人とのコミュニケーションが円滑に運ぶように場面や会話を設定した。これは受け入れ団体の要望を入れた。また、仕事の後や休日に出かけられるよう、夏祭りの情報等を盛り込んだ。各場面には、実習生の理解を助けるイラストを入れるように配慮した。2、3、4 課は『高知の生活語2003 高知はえいろう』の場면을そのまま使用した。

<重要表現>として取り上げた文法項目及び表現形は以下の通りである。これらはほぼ『高知の生活語2003 高知はえいろう』の解説を使用した。しかし、実習生に必要な禁止、義務、依頼・命令表現は1、2 課で取り上げるため、8 課では重要表現は取り上げなかった。また、この重要表現は指導者が指導する際に参考にすることを念頭に置いて作成した。

課	重要表現
1	1. 形容詞ウ音便 2. 5段動詞のわ行の「～て、～た」のウ音便化 3. 動詞のない形の「～ん」への変化 4. 禁止表現 (1) 「～れん、～られん」の表現 (2) 「～たら、いかん＝～ては いけない」の表現 (3) 「動詞ます形＋な」の表現 (4) 「動詞辞書形＋な」の表現<強い禁止> 5. 義務の表現：～なければならぬ＝～にやあいかん・～ないかん 6. 文末の表現 (1) 断定の表現：～じゃ、～や (2) 強調の表現：～ぜ、～ぜえ、～ぜよ、～ぞ、～ぞね、～でえ、～ねや
2	1. 「えい（ええ）」(1) 形容詞「よい」(2) 「～なくても よい」 2. 「て＋いる」に対応する形式 3. て形の融合形 4. 依頼・命令表現 (1) 動詞て形の表現：軽い依頼・命令 (2) 動詞ます形の表現：軽い命令 (3) 動詞の命令形の表現：強い命令 5. 危険を表す表現
3	1. 動詞の可能形 2. 動詞のない形の過去形 3. 「～ち」の表現 4. 特徴的な形容詞 5. 特徴的な副詞：「とても」に相当 6. ～やせんかった？＝～てはいませんでしたか？
4	1. 推量表現 2. 伝言の依頼表現
5	1. 同意や確認を求める表現 2. 勧誘表現 3. ～がやけど＝～だけれども 4. わからなかったら、～＝わからなかったら、～
6	接続詞「ほんで」「ほれで」＝それで
7	可能を表す表現 (1) 「よう＋動詞」の表現 (2) 可能動詞による表現

〈ことば〉は各課の初出のみに説明をつけ、会話、〈ことば〉の共通語の説明にはできる限り漢字を使用していないが、備考、重要表現には漢字も使用し、説明では日本語教育で使われる用語を用いた。これは、実習生が目にする頻度の高い部分には漢字を使用しなかったためである。

また、学習者がよりよく理解出来るようにイラストとともに本文中に主に実習生を取り巻く人たちである南国市国際交流協会会員による様々な観点からの7編のエッセイも収録し「くつろげる読み物」を目指した。

そして、巻末には〈ことば〉の「索引」を設け、各課の会話よりなる音声教材（CD）も作成し、添付した。

4.2 「Everyday Tosa-ben ～A Guide to Living in Kochi～」(農業技能実習生のための土佐弁地域語ガイドー英語版ー)の概要

「Everyday Tosa-ben ～A Guide to Living in Kochi～」は、変形A3版両面カラー印刷を四つ折りした(全16ページ)、英語を理解する農業技能実習生のために持ち歩き簡易辞書として使用できる土佐弁及び生活ガイドである。

4.2.1 「Everyday Tosa-ben ～A Guide to Living in Kochi～」の内容

表面の表紙には、農業技能実習生が働く作業現場の様子をイラストにし、以下の8点の情報を掲載した。

- (1) [Summer Fireworks Festival Information]
- (2) [だいじな ひょうげん Important Expressions]
- (3) [きけんを あらわす ひょうげん Phrases Expressing Danger]
- (4) [In Case of Disaster, Earthquake, or Tsunami]
- (5) [Japanese for Emergencies]
- (6) [Garbage Disposal]
- (7) [Riding Bicycles]
- (8) [Sightseeing on the MY-YU Bus]

(1)はテキストの8課と関連して花火大会の場所がわかるように地図を載せた。(2)はテキストの1課、(3)は2課で取り上げた重要表現である。(4)は高知で暮らす人々に必要な災害への対応、(5)は事故への対応、(6)は教科書の4課でも取り上げたゴミの分別、(7)は日本での自転車の乗り方の注意事項、(8)は高知市の観光名所を格安に巡る情報を掲載した。(4)～

しごき つゆとろ フラーム	日本語	英語	英語
1 だんご	だんご	1 dan-go	dan-go
2 だんご	だんご	2 dan-go	dan-go
3 だんご	だんご	3 dan-go	dan-go
4 だんご	だんご	4 dan-go	dan-go
5 だんご	だんご	5 dan-go	dan-go
6 だんご	だんご	6 dan-go	dan-go
7 だんご	だんご	7 dan-go	dan-go
8 だんご	だんご	8 dan-go	dan-go
9 だんご	だんご	9 dan-go	dan-go
10 だんご	だんご	10 dan-go	dan-go
11 だんご	だんご	11 dan-go	dan-go
12 だんご	だんご	12 dan-go	dan-go
13 だんご	だんご	13 dan-go	dan-go
14 だんご	だんご	14 dan-go	dan-go
15 だんご	だんご	15 dan-go	dan-go
16 だんご	だんご	16 dan-go	dan-go
17 だんご	だんご	17 dan-go	dan-go
18 だんご	だんご	18 dan-go	dan-go
19 だんご	だんご	19 dan-go	dan-go
20 だんご	だんご	20 dan-go	dan-go
21 だんご	だんご	21 dan-go	dan-go
22 だんご	だんご	22 dan-go	dan-go
23 だんご	だんご	23 dan-go	dan-go
24 だんご	だんご	24 dan-go	dan-go
25 だんご	だんご	25 dan-go	dan-go
26 だんご	だんご	26 dan-go	dan-go
27 だんご	だんご	27 dan-go	dan-go
28 だんご	だんご	28 dan-go	dan-go
29 だんご	だんご	29 dan-go	dan-go
30 だんご	だんご	30 dan-go	dan-go
31 だんご	だんご	31 dan-go	dan-go
32 だんご	だんご	32 dan-go	dan-go
33 だんご	だんご	33 dan-go	dan-go
34 だんご	だんご	34 dan-go	dan-go
35 だんご	だんご	35 dan-go	dan-go
36 だんご	だんご	36 dan-go	dan-go
37 だんご	だんご	37 dan-go	dan-go
38 だんご	だんご	38 dan-go	dan-go
39 だんご	だんご	39 dan-go	dan-go
40 だんご	だんご	40 dan-go	dan-go
41 だんご	だんご	41 dan-go	dan-go
42 だんご	だんご	42 dan-go	dan-go
43 だんご	だんご	43 dan-go	dan-go
44 だんご	だんご	44 dan-go	dan-go
45 だんご	だんご	45 dan-go	dan-go
46 だんご	だんご	46 dan-go	dan-go
47 だんご	だんご	47 dan-go	dan-go
48 だんご	だんご	48 dan-go	dan-go
49 だんご	だんご	49 dan-go	dan-go
50 だんご	だんご	50 dan-go	dan-go

Shirori

The shirori is a table. Do not change anything, when it is used, the temperature is 0 degree.

Don't change your position against the seats opposite. Don't sit in 0.

Fig. 1 Shirori is a table. Do not change anything, when it is used, the temperature is 0 degree.

Warm drinks are good. (green tea + sugar + hot water)

Fig. 2 Warm drinks are good. (green tea + sugar + hot water)

5. 2018年来日東部20期生夏組への方言授業への取り組み

2018年来日東部20期生夏組14名に対して新しく作成したテキストと便覧「Everyday Tosa-ben」を使って授業を行った。以下、その実施状況について述べる。

5.1 2018年来日東部20期生夏組への日本語講習における授業内容

2018年9月1日から14日までの10日間、復習を兼ねて従来の日本語の教科書を使うと同時に毎日方言学習の時間を取って進めた。1日目は「Every day Tosa-Ben」を配布し、名前を記入させ、便覧を使用して高知県の解説をした。

2日目は以下の手順で学習した。最初に「できるだけ言葉を聞き取る」という今回の授業の目的を説明した。次に何も見ずにCDを聞かせたが「全然わからない」というので、聞こえた言葉を聞くと「自転車、たばこ」の2語のみだった。その後、テキストを渡し、解説・目次・概要を読んで説明した。これらは、実習生に英文を読ませてから説明した。その後、1課のCDをもう一度聞き、テキストの英語訳を見ながら理解するように指導した。次に、登場人物の紹介・状況を説明をした。そして、段落ごとに筆者が土佐弁を読み、永野さち氏が英語訳を読んで、解説した。それから、「重要表現」を説明し、最後にもう一度CDを繰り返して聞いた。授業内容を説明しながら、常に「Every day Tosa-Ben」を参照させ、説明は自分の「Every day Tosa-Ben」に

書き込むように指導した。テキストは時間ごとに回収した。方言は毎日学習し、耳に慣れて聞き取れるようになることを目標とした。

3日目の2課からはCDを最初に何も見ずに3回聞かせてわかる言葉を書かせるようにした。この点については後述する。上記の手順でその後9日目まで学習し、最後の日にはアンケートを採った。また、3.5で触れた「方言テスト」を今回は数回に渡り実施した。

[方言テスト1]の1回目の結果は3名が正解であったが、2回目は12名が正解しており、ほぼ理解したことがうかがえた。[方言テスト2]に関しては、5名のみが正解となり、方言の意味を書くことについては、まだまだ理解出来ていないことがわかった。

5.2 CDの聞き取り調査

CDの聞き取り調査は以下の通り実施した。まず、各課の言葉を意味がわかる単位に区切り、何語あるかを数えた。それに対して、実習生がどのくらいの語を聞き取ったかを彼らの書いた語を数えて、全体のどれくらいの割合を占めるか調査した(数字は小数点第2位以下切り捨てで示す)。調査は2課から始め、最後に1課にもどったため、1課の数値が最終結果となる。各課における聞き取り調査は3回聞かせて書き取り、比較をした。

5.2.1 CDの聞き取り調査の比較結果及び考察

CDの聞き取り調査から以下の点が明らかになった。まず、最初に3回聞いたのが2課で、初めての聞き取りとなったためか聞き取り率は最も低く平均18%だった。しかし、最後にもう一度聞いた1課の聞き取りは平均29.5%に向上しており、繰り返しの効果があったと考えられる。最初の2課と最後の1課の個人の数値を比較しても全員の数値が1課の方が向上していた。次に、8課の聞き取りの数値が高いことも最後から2番目であり、聞き取りにされたことがその理由の1つと考えられる。

全課を通じての聞き取りの平均は24.8%であり、ほぼ4分の1を聞き取れたと考えられる。個人別に見た場合、1番良く聞き取れているのが10Fで彼女は平均して4割近くの言葉を聞き取っていた。8課においては、5割近くを聞き取っていた。

課別に見てみると、2課の聞き取りが一番低かったが、仕事の表現なので、理解を深めるためにも工夫して教える必要性を感じた。また、その次に低

かったのは6課の「ニラの仕事」だったが、これは実習生のほとんどが関わる仕事内容なので、この課の理解についても工夫が必要だと感じた。また、1つの課の語彙数が少ない課の方が全体として聞き取れているようである。3課と4課は語彙数が少なく、数値が一番低かった2課の半分の語彙数で、内容も3課は騒音問題、4課はゴミ分別など、理解しやすい内容だったことも理由と考えられる。語彙量の多い課は場面を短く切って聞かせることも必要かと思われる。

<各課の聞き取り調査結果 最上段：延べ語数>

課	1 (132)	2 (104)	3 (40)	4 (50)	5 (80)	6 (187)	7 (217)	8 (117)	(語数)
1 M	32 24.2%	12 11.5%	13 32.5%	16 32%	21 26.2%	35 18.7%	44 20.2%	23 19.6%	平均 20.4%
2 M	31 23.4%	17 16.3%	11 27.5%	16 32%	16 20%	37 19.7%	52 23.9%	29 24.7%	平均 21.8%
3 M	31 23.4%	15 14.4%	11 27.5%	14 28%	16 20%	30 16%	51 23.5%	30 25.6%	平均 20.6%
4 M	43 32.5%	24 23.0%	10 25%	13 26%	14 17.5%	44 23.5%	65 29.9%	29 24.7%	平均 25.2%
5 M	32 24.2%	16 13.3%	9 22.5%	13 26%	13 16.2%	37 19.7%	42 19.3%	30 25.6%	平均 20.0%
6 M	46 34.8%	21 20.1%	15 37.5%	19 38%	36 45%	51 27.2%	73 33.6%	34 29.0%	平均 30.7%
7 M	51 38.3%	30 26.3%	16 40%	13 26%	35 43.7%	48 25.6%	64 29.4%	36 30.7%	平均 30.5%
8 M	48 36.3%	24 23.0%	12 30%	10 20%	21 26.2%	44 23.5%	54 24.8%	38 32.4%	平均 26.2%
9 M	35 26.5%	18 17.3%	13 32.5%	15 30%	20 25%	55 29.4%	52 23.9%	34 29.0%	平均 25.2%
10 F	52 39.3%	27 25.9%	17 42.5%	17 34%	32 40%	66 35.2%	95 43.7%	56 47.7%	平均 37.7%
11 M	39 29.5%	12 11.5%	8 20%	13 26%	14 17.5%	34 18.1%	58 26.7%	32 27.3%	平均 21.9%
12 M	40 30.3%	14 13.4%	9 22.5%	18 36%	17 21.2%	37 19.7%	57 26.2%	23 19.6%	平均 22.4%
13 M	32 24.2%	18 17.3%	11 27.5%	16 32%	20 25%	34 18.1%	52 23.9%	28 23.9%	平均 22.0%
14 M	35 26.5%	19 18.2%	12 30%	14 28%	27 33.7%	34 18.1%	41 18.8%	33 28.2%	平均 22.4%
平均	39 29.5%	18.7 18%	11.7 29.2%	14.7 29.5%	21.5 26.9%	41.8 22.3%	57.1 26.3%	32.5 27.7%	総平均 24.8%

5.3 2018年来日東部20期生夏組への日本語講習におけるアンケート調査

9月14日、最後の講習日に(1)授業で勉強した土佐弁が理解できましたか、(2)テキスト「Tosa-Ben Survival Guide」は土佐弁理解に役立ちましたか、(3)授業の感想、(4)テキストの会話を理解することができましたか、(5)仕事が始まって便覧「Everyday Tosa-Ben」が役立つと思いますか、(6)便覧のどのページが好きですか、それはどうしてですか(複数回答可)、の6点を英語で回答してもらった。

(1)の土佐弁に関しての質問には「わかった、理解できた」が3人、「少し理解出来た」が10人、「難しい」が1人いた。一番聞き取りが出来た実習生であった10Fは「CDを毎日聞くうちにだんだん聞けるようになりました」と書いていた。そして、3番目に聞き取り率の高い実習生だった7Mは「授業で沢山勉強してきたので最初は全くわからなかった言葉もわかるようになってきました」と書いていた。また「授業で勉強してわかりました」、「授業で聞いたときに少しわかりました」との記述もあった。(2)は全員が「役に立つ」と答えた。(3)の感想では「嬉しい」が2名、「難しいけれど楽しい、面白い、頑張る」の意見が9名だった。「難しかった」は2名、「時々わかり、時々わかりませんでした」の記述もあった。2番目に聞き取り率の高い実習生であった6Mは「楽しかったのもっと勉強したい」と書いていた。(4)については「わかった」が3名、「少しわかった」が11名となった。その中に「翻訳、イラストがあるのでわかった」や「先生が説明してくれた時だけわかった」との意見もあった。(5)については全員が「役立つと思う」と答えた。「持ち歩くことが出来るのでいつでも調べることが出来る」とあり、11Mは「お父さんと話をするために前もって知識が出来ました」と書いていた。そして、(6)については7名が「全部好き」と答え、[At Work]が8名であった。理由は「仕事をする時に役立つ、使える」と5名が挙げていた。また、[Tosa Dialect]が5名であり、理由は「実習生が受け入れ農家とよりよくコミュニケーションを取る助けとなると思います」と5名中4名が書いていた。さらに、「だいじな ひょうげん」は5名、「きけんを あらわす ひょうげん」は2名が挙げていた。

6. 土佐弁の理解及び学習についての考察

アンケートの結果を見ると、本テキスト及び便覧についての重要性は全員理解していると考えられる。特にコミュニケーションの手段としての役割を

考慮した便覧は手軽に携行できることも理解していた。また、英語の翻訳や、イラストが理解を助けていることもわかった。しかし、会話の内容がなかなか理解出来ないことを改善していく指導法についてはこれからの課題となる。今回筆者らが実施したように何度も聞き取りをする、繰り返し「便覧」を参照し、最も必要であると考え「大事な表現」を繰り返し教えることは1つの方法であると考え。作成した教科書を如何にうまく使っていただけるかがこれからの課題となろう。次回から、指導法を変えながらよりよい方法を目指し改善していきたい。

7. おわりに

2003年に作成した地域語教材『高知の生活語 2003 高知はえいろう』を改定して新しいテキスト『土佐弁 サバイバルガイド 2018 ～仕事編～』と便覧「Everyday Tosa-ben ～A Guide to Living in Kochi～」(折りたたみガイド)を作成し、実習生に対して方言の指導を試みた。テキストは高知県における実習生の日本語学習の場で使用し、便覧は実習生が毎日の生活に携行して活用してほしいと考えている。今回も筆者は地域語学習を行う際の前提として、基本的な日本語学習を終えてから「聞いて理解すること」を目指して指導した。実習生には決して目上の人(受け入れ農家)に土佐弁で話してはいけないと指導している。⁽²⁰⁾そのために実習生からの目上の人への依頼や質問などの表現は便覧に[At Work](仕事に役立つ日本語 34 文収録)としてまとめたのである。実習生が場面に応じた日本語を使用できることを期待している。

また、高知県のニラの作業現場にはベトナム人の農業技能実習生も働いている。実際に必要な場面のみをベトナム語版に置き換えた冊子を作ることも将来的に考えている。

筆者は今回作成したテキストにおいて言葉の学習は勿論、内容を学習することによって実習生が地域社会のルールを学び、地域の人々とよりよいコミュニケーションを築いて「隣人」としての生活を送ることが出来るようになることを願い会話場面を設定した。そして、このテキストから学んだことを生かして、実習生と受け入れ農家、及び地域住民との円滑なコミュニケーションを築くことが出来る多文化共生社会を目指すために、このテキストが一助になることを切に願っている。

【謝辞】

本稿をまとめるにあたり、「高知東部農振協同組合」の実習生の皆さん、事務局の利岡まゆみさん、「くろしお農業振興協同組合」の青木順子さん、吉川翠さん、高知県商工労働部経営支援課主査横山賢亮さん、永野さちさんに変なお世話になった。ここに記して感謝の意を表したい。

【注】

- (1) OJT (On-The-Job Training) とは、実際の職務現場において、業務を通して上司や先輩社員が部下の指導を行う、主に新入社員育成のための教育訓練のことをいう。 <https://bizhint.jp/keyword/88095> accessed 2018.10.3
- (2) 農林水産省 HP <http://www.maff.go.jp/j/keiei/foreigner/attach/pdf/kyougikai-3.pdf> accessed 2018.10.3
- (3) 外国人技能実習機構HP 「技能実習 2号移行対象職種 77職種139作業 2017年12月6日現在」
<http://www.otit.go.jp/files/user/181001-7.pdf> accessed 2018.10.3
- (4) 厚生労働省 HP 「技能実習制度の現状」
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11800000-Shokugyounouryokukaihatsukyoku/0000212063.pdf> accessed 2018.10.3
- (5) 落合美佐子 (2010) 「外国人研修生・技能実習生の生活実態と意識 — 語りの中から見えてくるもの —」『群馬大学国際教育・研究センター論集』第9号、p. 53
- (6) グェン・ティ・ホアン・サー (2012) 「日本の外国人研修制度・技能実習制度とベトナム人研修生」『佛教大学大学院紀要 社会学研究科篇』第41号、p.20
- (7) 厚生労働省 HP
https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/05/dl/s0517-2a_0006.pdf accessed 2019.1.18
- (8) 吉田美喜夫 (2012) 「外国人技能実習制度の現状と課題 — JITCO の調査報告 —」『立命館国際地域研究』第36号、p.207
- (9) 法務省 HP <http://www.moj.go.jp/content/001225622.pdf> accessed 2018.10.3
- (10) 総務省統計局整備 政府統計の総合窓口HP 「都道府県別 在留資格別 在留外国人 (総数)」2017年12月末の統計より
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20170&month=24101212&tclass1=000001060399> accessed 2018.10.3

- (11) 外国人技能実習機構HP http://www.otit.go.jp/search_kanri/ accessed 2018.10.3
- (12) 高知県国際交流協会HP
http://www.kochi-kia.or.jp/organization/org_b-07.html accessed 2018.10.3
- (13) 「高知東部農振協同組合」のパンフレット記載の紹介文より引用。
- (14) 「東部18期生夏組」は東部農振協同組合での受け入れ実習生の名称である。
- (15) 詳細は今井多衣子（2016）「外国人農業技能実習生の地域語表現の学習方法—高知県香美市の場合—」を参照。
- (16) 翻訳は実習生と一緒に教えている永野さち氏が行った。以下同様。
- (17)

★だいじな ひょうげん

1：～ん＝～ない	れい：たらん わからん いかん かまん
2：～れん/～られん＝～てはいけない	れい：いかれん せられん
3：～しゅう＝～している	れい：いまやりゆう しゅう
4：～しちゅう＝～している	れい：わかちゅう しちゅう
5：～しちよく＝～しておく	れい：やちよく
6：～しちよいて（しちよって）＝～しておいて	れい：おいちよって
7：～や＝～しなさい	れい：しいや たべや いきや
8：～き（け）＝～から	れい：きょうは あめやき なかでするで

- (18) 南国市国際交流協会（2013）「外国人のための南国市生活ガイド ようきたよ うきた」（日本語・中国語・英語・ベトナム語・インドネシア語の5カ国語版）
- (19) これらの文例はくろしお農業振興協同組合の事務及び日本語講習担当の青木順子氏が作成されたリストを使用させていただいた。
- (20) 不適切な方言形を使用した際の誤解を避けるためである。

【参考文献】

- 今井多衣子（2016）「外国人農業技能実習生の地域語表現の学習方法—高知県香美市の場合—」『高知大学留学生教育』第10号、高知大学国際連携推進センター、pp.63 - 77
- 今井多衣子・東條美紀・池純子著、山本恭子監修（2003）『高知の生活語2003 高知はえいろう』高知大学

- 3 落合美佐子 (2010) 「外国人研修生・技能実習生の生活実態と意識 — 語りの中から見えてくるもの —」『群馬大学国際教育・研究センター論集』第9号、pp.51-68
- 4 ゲン・ティ・ホアン・サー (2012) 「日本の外国人研修制度・技能実習制度とベトナム人研修生」『佛教大学大学院紀要 社会学研究科篇』第41号、pp.19-34
- 5 土居重俊・浜田数義編 (1985) 『高知県方言辞典』高知市文化振興事業団
- 6 吉田美喜夫 (2012) 「外国人技能実習制度の現状と課題 — JITCOの調査報告 —」『立命館国際地域研究』第36号、pp.207-220

いまい たえこ

(高知大学国際連携推進センター非常勤講師)